

●この説明書は、必ず取付けされる方へお渡しください。※  内はロットNo.表示位置を示します。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

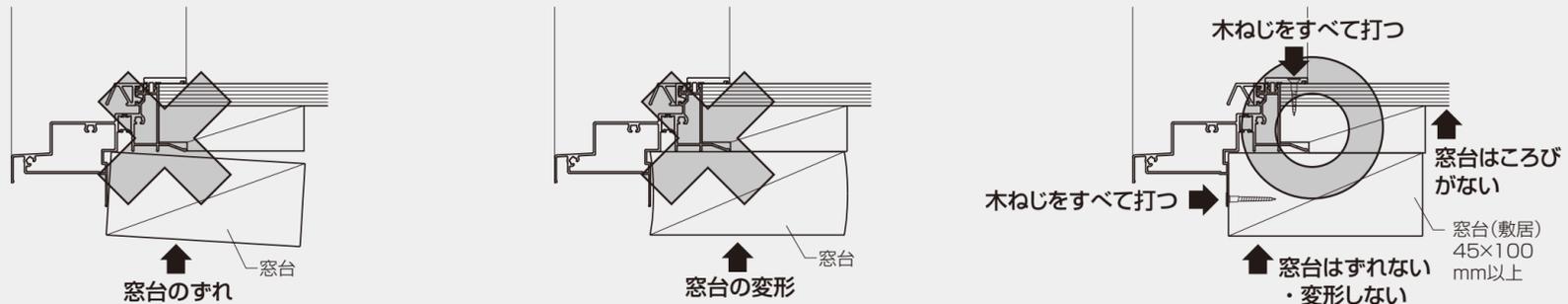
▲注意

●本体吊込みの際は相応の人数で行ってください。誤って本体を落下させた場合、思わぬケガをするおそれがあります。

(組立て後の本体重量は最大65Kgになります。)

●風のあおりなどによるドア本体の落下・枠や外壁材の損傷・漏水・ドアの開閉不良、サッシ下枠の垂れ下がりによる気密・水密・断熱性能の低下の原因になるおそれがありますので、下記事項をお守りください。

・必ず45mm×100mm以上の窓台(敷居)・30mm厚以上の間柱(ピッチ500mm以下)で開口部を作ってください。



・吊元側(丁番側)の枠は、くだ柱に取付けてください。やむを得ず間柱に取付ける場合は、間柱とくだ柱との間に補強材として構造用合板、又は胴縁(30mm×90mm)を入れてください。

・枠の水平・垂直を必ず出して取付けてください。

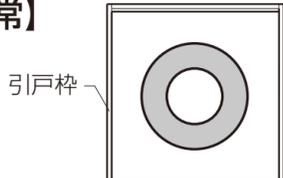
■取付け上のお願い

- 必ず指定の木ねじで枠を固定してください。
 - 縦枠は必ず垂直に取付けてください。
 - 本体は枠を躯体に固定した後、吊込んでください。
 - 本体の吊込み後、必ずチリ合わせブロックを外してください。
 - 反り防止のため、樹脂面を直射日光に当てた状態で放置しないでください。
 - 樹脂は割れたりキズついたりしやすいため、ぶついたりこすったりしないでください。
 - 樹脂部材ねじ止めの際は、締めすぎないでください。樹脂が割れたり、ねじが貫通したりするおそれがあります。
 - 樹脂材に荷重がかからないよう、保管・輸送の際は保護してください。
 - 取付け前には、必ず開口部の水平、垂直および枠の出来寸法を確認してください。(枠の出来寸法はカタログを参照ください。)
- 「気密・断熱性能の低下」、「障子の開閉が重くなる」、「鍵が掛からなくなる」といった原因になります。

■取付けねじ一覧表

①	皿木ねじ φ3.8×38	
②	皿木ねじ φ3.1×20	

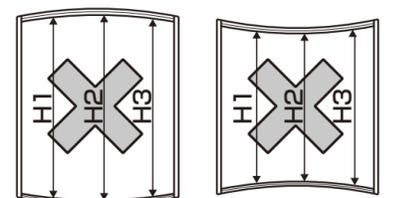
【正常】



【1】枠のH方向の確認

- 枠のH方向の寸法(H1・H2・H3)を同じにしてください。錠が掛かりにくくなったり、ドア本体の建付け調整ができなくなります。
- ※最大値と最小値の差が2mm以内になるように調整してください。

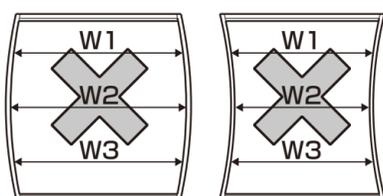
【太鼓状態】 【つづみ状態】



【2】枠のW方向の確認

- 枠のW方向の寸法(W1・W2・W3)を同じにしてください。錠の位置が合わなくなります。
- ※最大値と最小値の差が2mm以内になるように調整してください。

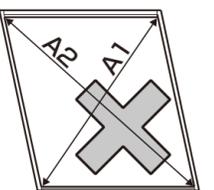
【太鼓状態】 【つづみ状態】



【3】枠の対角方向の確認

- 枠の対角方向の寸法(A1・A2)を同じにしてください。錠が掛からなくなったり、戸先にすき間があいたりします。
- ※A1とA2の差が3mm以内になるように調整してください。

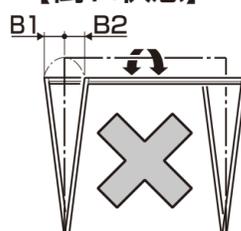
【傾き状態】



【4】枠の内外方向(倒れ)の確認

- 枠が内外方向に倒れないようにしてください。障子の開閉が重くなる可能性があります。
- ※B1もしくはB2が2mm以内になるように調整してください。又、枠の左右が室内外別々の方向に倒れないようにしてください。

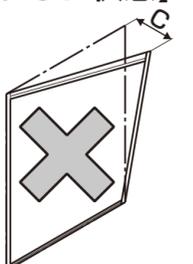
【倒れ状態】



【5】枠のねじれの確認

- 枠の左右の出入り位置を合わせてください。C寸法が規定値を超えると、障子の建付け調整ができなくなったり、開閉が重くなる可能性があります。
- ※Cが2mm以内になるように調整してください。

【ねじれ状態】

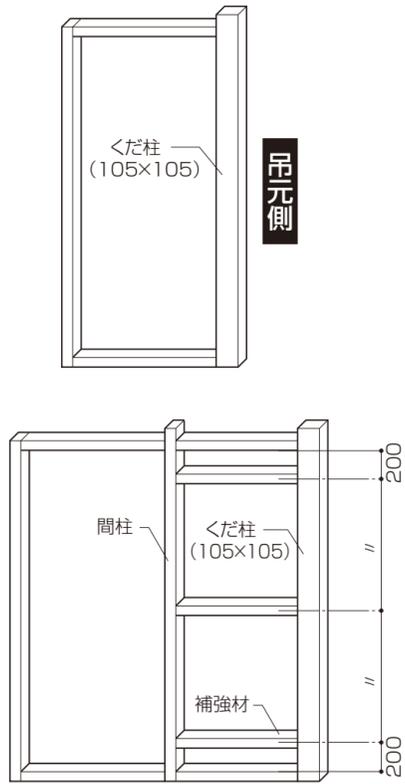


■取付け順序

1 躯体の確認と補強

▲注意

- 吊元側（丁番側）の枠は、くだ柱に取付けてください。やむを得ず間柱に取付ける場合は、間柱とくだ柱との間に補強材として構造用合板、又は胴縁（30mm×90mm）を入れてください。

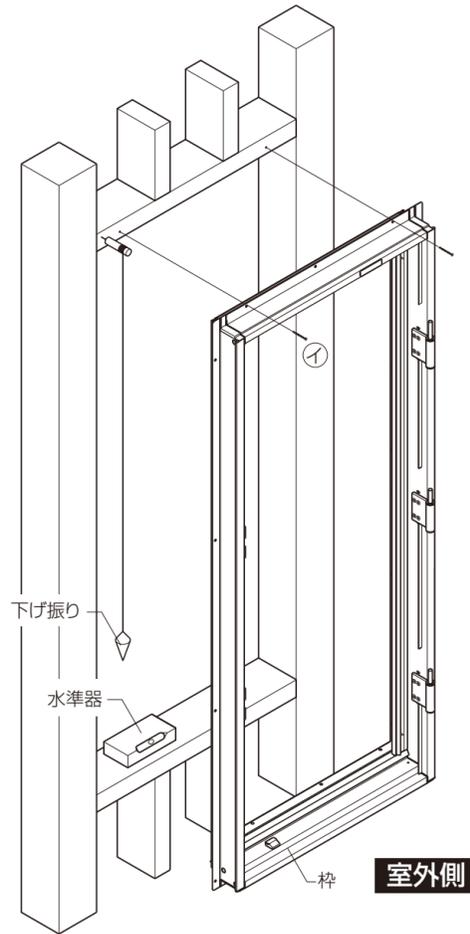


2 枠の仮止め

- 開口部の水平・垂直を確認し、枠を仮止めます。

▲注意

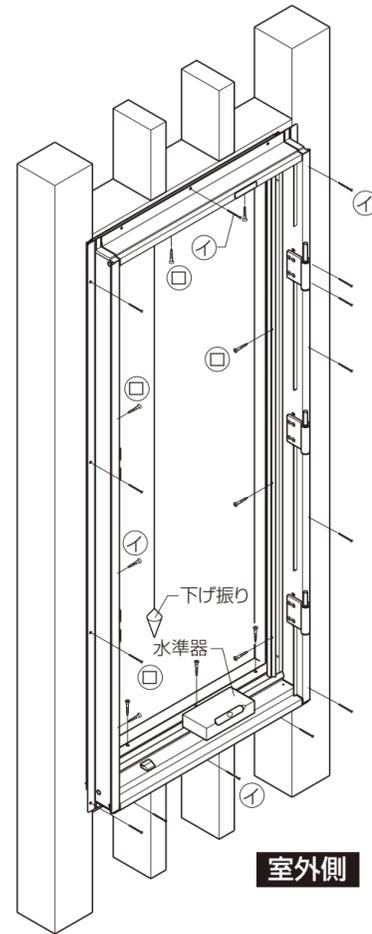
- 枠の水平・垂直を必ず出して取付けてください。



3 枠の調整と固定

- 下げ振り・水準器で枠のねじれ・たおれ・ゆがみを直した後、固定します。

※縦枠は、必ず垂直に取付けてください。
(開閉障害・すき間が生じるおそれがあります。)



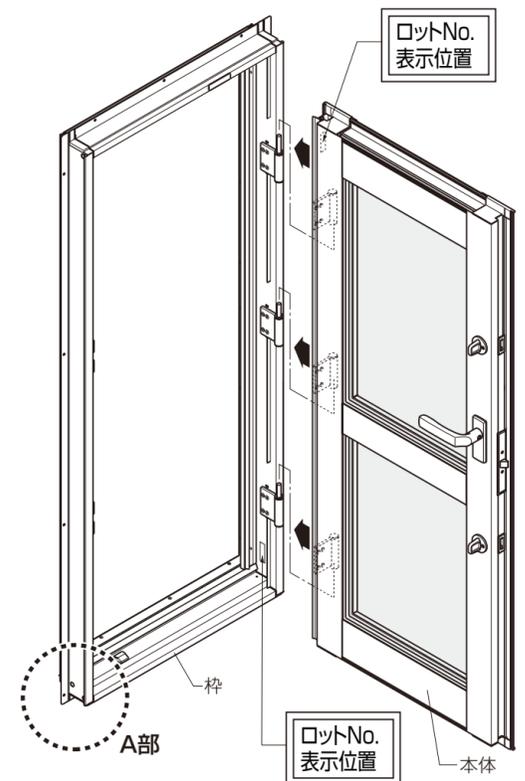
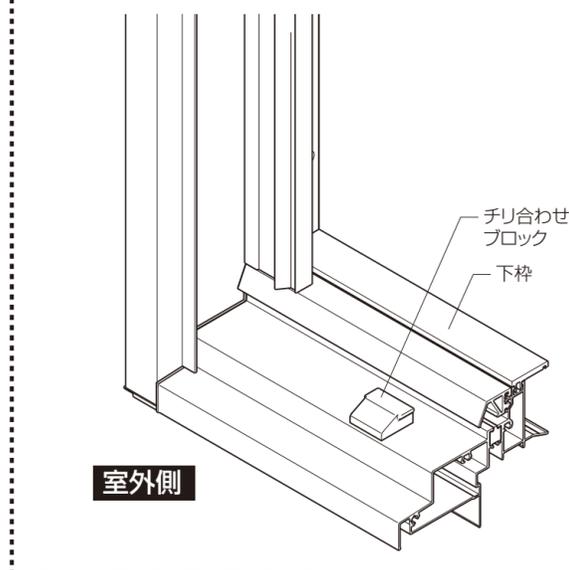
4 本体の吊込み

- ①ドアを90°以上開き、上の丁番から吊込みます。
※丁番は在来工法でH20（サッシH2030）以下の場合は2枚、H20より大きい場合は3枚付いています。
- ②下枠に両面テープで張ってあるチリ合わせブロックを外します。

●お願い

- ※取付け完了後は必ずチリ合わせブロックを取外してください。
(ドアの開閉に支障がでます。)

■A部詳細図

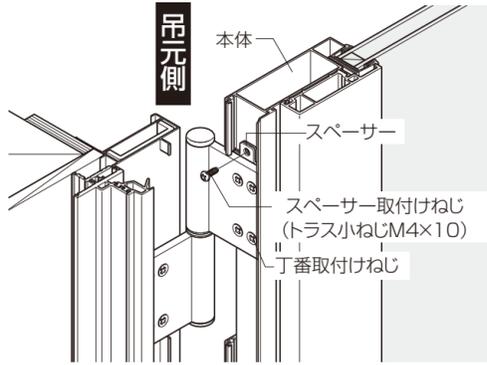


■建付け調整……ここで説明する建付け調整は、枠を取付けた後で調整が必要になった場合の補助的なものです。

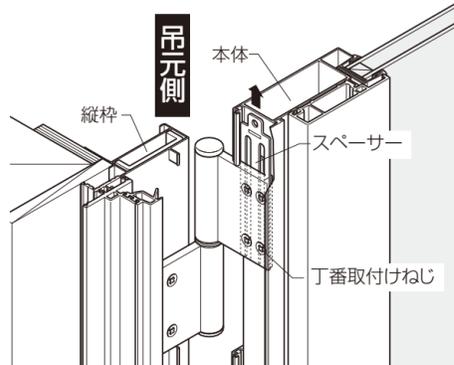
■左右方向の調整



※スペーサーはあらかじめ本体に取付けてあります。
 ①スペーサー取付けねじを外します。
 ②丁番取付けねじ（4本）を緩めます。



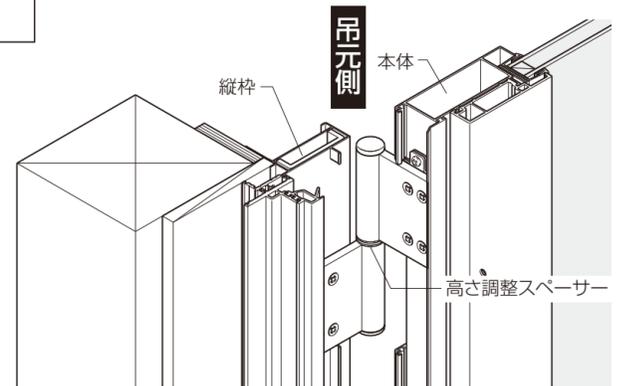
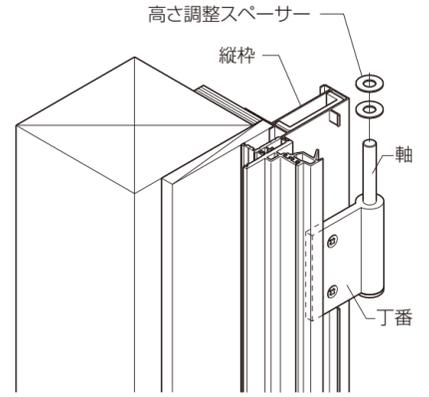
③スペーサーを引抜いて外します。
 ④丁番取付けねじを締付けます。
 ※スペーサーを1枚外すと1.5mm、2枚外すと3mm、本体が吊元側へ寄ります。
 ※樹脂丁番スペーサーの場合、1枚外すと1.75mm、2枚外すと3.5mm、本体が吊元側へ寄ります。（樹脂丁番スペーサーは2つ折りの為、切り離してご使用ください。）
 ※スペーサーを追加すると、戸先側へ寄ります。



■上方向の調整



●本体を枠から外し、丁番の軸に高さ調整スペーサー（丁番と同梱）を入れます。
 ※1枚入れると1.5mm、2枚入れると3mm本体が上がります。

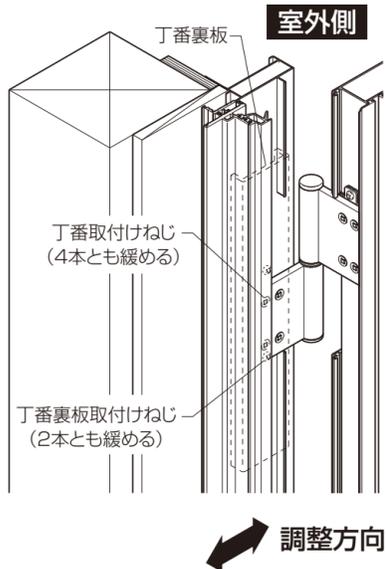


■前後(室内・室外側)方向への調整

①ドア本体を枠から外し、枠側の取付けねじ（4本）と丁番裏板取付けねじ（2本）を緩めます。

お願い……
 ※取付けねじ全部を外さないでください。丁番裏板が脱落します。

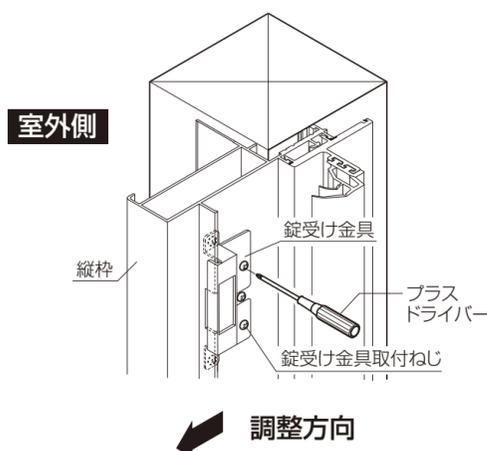
②丁番裏板ごと室外側に1.5mm、室内側に1.5mm、ドア本体を移動させることができます。
 ③①で緩めた丁番取付けねじと丁番裏板取付けねじを締付けます。



■錠受け金具の調整

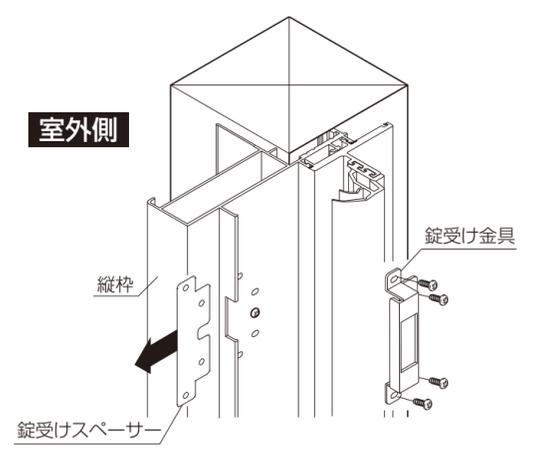
ラッチ、ロックの掛りがきつい場合は、錠受け金具の位置を調整します。

●前後方向への調整



①錠受け金具取付けねじ（4本）を緩めます。
 ②錠受け金具位置を調整します。

●左右方向への調整



①錠受け金具を外します。
 ②錠受けスペーサーを外します。
 ③錠受け金具を取付けます。